

共生のきずなを求めて!

# NPO 現代座

2020 年 2 月 1 日 発行  
(通巻 484 号)

## 現代座レポート No. 81

- ・心をつなぐバラエティ劇場 「群来」 (1)
- ・心をつなぐバラエティ劇場 朗読、落語、小芝居紹介 (2)
- ・「われらいずこより来たる」木村快ノートより (3)
- ・誰でもできる朗読教室 第 9 期 受講者募集 (4)
- ・会館日誌 会員入会、継続、寄付 (4)

NPO 現代座ホームページ <http://www.gendaiza.org/>

特定非営利活動法人 NPO 現代座 発行責任者：木村快

〒184-0003 東京都小金井市緑町 5 丁目 13 番 24 号 TEL 042-381-5165 (代) FAX042-381-6987

### 「失われた協同の記憶 群来 (くき)」



2020 年  
心をつなぐバラエティ劇場

2月7日から9日まで現代座3F小ホールで「心をつなぐバラエティ劇場」が行われました。客席の各所に小テーブルを配置し、お茶を飲みながら楽しんでいただく企画です。今回はNPOメンバーの矢川千尋が所属するBONBON組も参加してくれました。公演は3ステージとも満席で、ゆったりお茶を飲みながら楽しんでもらうにはちよつときつくて、嬉しいやら申し訳ないやら。

長野県松本市在住の今村純二、倅子夫妻が色々な人に呼びかけ、長野県、新潟県、岐阜県、愛知県、茨城県など遠方からたくさんの方が駆けつけてくださいました。

◆今回のメインテーマは「失われた協同の記憶・群来(くき)」です。

「くき」とは江戸時代にはじまり、昭和30年代に姿を消した北海道日本海側で行われた独特のニシン漁のことで、ニシンは春告げ魚と言われる、春先に数日間、大量のニシンが押し寄せ、沿岸にメヌ魚が卵を産み付け、オス魚が精子をかけるため、湾全体が真っ白になったそうです。

多くの網元が1グループ30人から50人の漁師でチームを組み、突然押し寄せるニシンの群れを相手に複雑膨大な作業をこなします。

◆しかしわずかな期間の労働のため「やん衆」と呼ばれる農閑期の青森・秋田、岩手の出稼ぎ百姓でチームを組まなくてはなりません。しかも相手が生きた魚ですから一瞬のうちには集団的に対応を迫られます。このため、作業の順番で「船漕ぎ音頭」、「網起し音頭」、「ソーラン節」、「子叩き音頭」などの作業唄を唄いながら集団的に分業し、作業を進めます。こうした作業唄を「沖揚げ音頭」と呼びます。

◆漁は三日間連続して続くこともあり、不眠不休で漁を続けます。全員が心身を一体化して唄うことで、超人的労働を可能にしたのです。これは世界でもきわめて珍しい協同労働のための作業唄組曲で、貴重な文化遺産です。しかし、今ではもうその形態は忘れ去られて、復元することは出来ません。

◆今回の「沖揚げ音頭」は今から53年前に、今村純二が北海道三石町の漁師たちに教わったものです。1981年に上演した「出航」の舞台でも使われましたが、この失われた文化遺産「協同の心」をなんとか保存できないかと、舞台歴55年を迎える今村が再現に取り組みました。

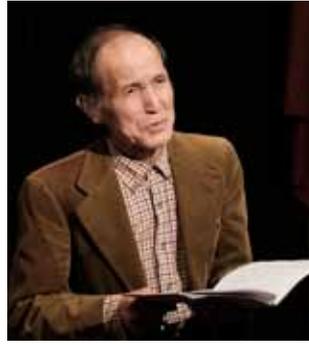
(木下美智子)

## 2020年 心をつなぐバラエティ劇場・構成

### 第1部

#### ◆朗読 オー・ヘンリー作「賢者の贈り物」

NPO現代座・中村保好



貧しい夫妻が相手にクリスマスプレゼントを買うお金を工面しようとする。夫のジムは、祖父と父から受け継いだ金の懐中時計を大切にしていた。妻のデラはその金時計を吊るすプラチナの鎖を贈り物として買うかわりに、自分の美しい髪を、バツサリ切り落として売ってしまう。

一方、夫のジムはデラが欲しがっていた鼈甲（べっこう）の櫛を買うために、自慢の懐中時計を売ってしまう。この愚かな行き違いは、しかし、最も賢明な行為であったと結ばれている。

#### ◆落語 「粗忽長屋」

BONBON組・鹿目久憲（かめ・ひさのり）



おっちょこちよいの八つあんが、行き倒れた人物を見て弟分の熊さんと勘違いし、本人確認のため本人を連れてくるという古典落語。まずお客を劇場になじませる落語の力がある。

#### ◆落語からのお芝居「猫の皿」

BONBON組 矢川千尋・清水雅子

これは江戸時代の落語「猫の皿」を矢川千尋が現代の喫茶店を舞台にした女性2人の芝居に翻案したものです。

ある女性客が喫茶店のバルコニーでコーヒーを飲みながら、店の隅で餌を食べている飼猫を見ていると、餌受け皿はどう見ても柿右衛門の焼き物のホンモノであることに気づく。そこで彼女は何気ない風を装って猫を抱き寄せ、店主に「猫が気に入った。30万円あげるから譲ってちょうだい」と持ちかけた。

店主が喜んで承諾すると、「じゃあこの皿と一緒に持っていくよ」と、鉢を持ち去ろうとすると、「猫は差し上げますが、この皿は祖母の形見でだめです」と断る。「何でこんなにっぱな皿を猫のえさ皿にしているの?」と尋ねると、「こうしてますとね、時々猫が30万円で売れます」と落ちる。

軽快なテンポの芝居で最後の落ちでは思わず笑ってしまう楽しいお芝居になりました。



「猫の皿」矢川千尋・清水雅子

### 第2部

#### ◆失われた協同の記憶「群衆」脚本構成・今村純二

「地球温暖化でこのままでは漁業資源は大幅に激減する。ニシン漁の消滅は地球からの警告ではないかと考える」と重いテーマから淡々と語り起こす今村純二。果たしてお客さんが受け入れてくれるかと心配でしたが、いつの間にか客席は舟漕ぎの動作でからだを揺すりながら、大合唱になりました。

お客さんからは「労働の唄と一緒に唄って楽しかった」と言っていたきましたし、「漁師が生み出したこんな文化遺産があったなんて素晴らしい」「ソーラン節がこんな意味のある唄だとはじめて知った」という声もたくさんありました。新しい試みに挑戦する勇気をいただいた公演でした。



「沖揚げ漁」の仕組みを写真と絵図で語る今村純二。

黒澤義之、木の下敬志、八木浩司、中村保好が踊りと歌で共演。

木村快ノート ◆われらはずこより来たる①◆  
**新劇運動とは何だったのか**

◆新制作座から捨てられて

2020年1月はNPO現代座の前身である統一劇場が生まれるきっかけとなった新制作座問題が起こったからちょうど55年目になる。統一劇場時代から続けているメンバーは6人にすぎないが、新しいNPO演劇集団として、試行錯誤しながら活動を続けている。

ぼくらは新制作座で育ち、捨てられ、何が何だか判らないまま現在に至っている。事件は1964年12月のクリスマス朝、職業劇団・新制作座（構成員180人）の様々な分野で働いていた若者たち69人が何の予告もなしに突然解雇されたことからはじまった。たちまち明日からの生活の問題があり、「せめて解雇手当の支給を」と求めたことがマスコミの報道で社会問題となり、何が何だか判らないまま、気がつくとはくらは不当解雇反対争議団になっていた。ぼくらが望んだわけではなく、周囲の状況に翻弄されながら、そうだったのである。当時29歳だったぼくもとうとう84歳になる。新制作座入団以来のわが劇場人生は61年になる。なんとか記録を残しておきたい。

◆あの事件は何だったのか

新幹線が誕生し、東京オリンピックピックなどで日本中が浮かれていた。当時の新聞・週刊誌はぼくらがまるで反社会的存在であるかのように報じている。当時の主な新聞・週刊誌の記事のタイトルを並べてみた。

報道は若者たちを解雇した新制作座の言い分だけを大げさに報道している。唯一、『週刊新潮』だけが「現

代の顔」というタイトルで追いやられた69人の生活をグラビアで紹介している。今振り返っても、客観的で貴重な記録になっている。

◆新劇運動とは何だったのか

社会的烙印を押され、訳のわからないまま生き続けた統一劇場は18年目の1983年、「ふるさとときやらばん」「希望舞台」「現代座」とそれぞれの道へ自立し、やっとな自分たちの劇団になった。劇場技術は体の感覚を土台にして引き継がれる仕事だから、改めて自分たちの育った新制作座とは何だったのかを考えている。

2010年頃、希望舞台の代表者・由井敷から「自分は新劇運動に憧れて1962年に生活者のための演劇を主張する新制作座に入った。おれたちが求めた新劇運動とは何だったのか、新制作座はなぜおかしくなつたのかを考えてみたい」と声をかけられ、「われらはず

こより来たる」を合言葉にして考えあっている。

◆ヴェリテ・せるくる（真実の輪）

「新劇」は1920年代からはじまった日本の近代劇運動である。昭和の初め、新協劇団系は反権力思想を持つていると弾圧され、昭和15年には政令で強制解散に追い込まれ、政府の慰問劇団で働く以外の活動は認められなくなった。

敗戦後、新協劇団が復活するが、今度はGHQ支配下のレッドパージや新劇運動内の政治的対立などで混乱。新協劇団から中央芸術劇場が離脱。どちらにもつかなくなった中間派が自由で芸術的な演劇を目ざし「ヴェリテ・せるくる」（写真下）を設立。これがわれらの先祖である。メンバーはいずれも治安維持法、兵役、戦時慰問を経験しているが、小公演を続けながら仕事のあり方をめぐって激論が続く。ついに草村公宣、真山美保、榎村浩吉以外が離脱。この激論から新制作座が生まれる。

テレビ世代にイメージでできるように紹介すると、織田政雄は1960年度のブルーリボン賞助演男優賞受賞、下条正巳は「男はつらいよ」のおいちゃん役で活躍、佐野浅夫はテレビドラマ「水戸黄門」の3代目として知られる。次回からはこの経過を、少し丁寧に紹介したいと思う。

- ◎ 1月8日 中日新聞・朝刊 新制作座で解雇騒ぎ
- ◎ 1月8日 アンサンブル乱した分子 活動への影響は少ない
- ◎ 1月8日 中日新聞・夕刊 劇団員67人を解雇
- ◎ 1月9日 サンケイ新聞 新制作座で内紛
- ◎ 1月9日 首謀者ら6人に退団処分
- ◎ 1月9日 サンケイ・スポーツ
- ◎ 1月9日 劇団内に秘密組織・新制作座で大量処分
- ◎ 1月9日 日刊スポーツ 新制作座のお家騒動
- ◎ 1月9日 処分撤回運動へ 退団者などが争議団結成
- ◎ 1月9日 毎日新聞 新制作座大ゆれ
- ◎ 1月9日 67人のクビ切りで対立
- ◎ 1月14日 朝日新聞・夕刊 奇妙な争議 ゆれる新制作座
- ◎ 1月14日 劇団にベトコン 真山天皇の批判飛ぶ
- ◆ 週刊文春 1月23日号 「真山美保一座クビ切り顛末記」
- ◆ 週刊サンケイ 「新制作座の分裂劇」秘密組織とユートピア
- ◆ 週刊新潮 1月23日号 「内側67人が劇団失格、独走しすぎた下部組織
- ◆ 週刊新潮 グラビア特集「現代の顔・私たちは帰りたい」
- ◆ 週刊新潮 新制作座を追われた69人の暮らし



◆織田政雄 ◆大森義夫 ◆下条正巳 ◆草村公宣 ◆立川恵作 ◆真山美保 ◆佐野浅夫 ◆榎村浩吉

## お知らせ

TEL 042-381-5165  
FAX 042-381-6987NPO現代座 **誰でもできる朗読教室 第9期 受講者募集!**  
基礎訓練から舞台発表まで (全12回講座)

開講期間 2020年4月～9月

講師 武蔵野朗読会主宰 長谷川葉月

日時 毎月第2・第4水曜日 (原則)

昼クラス 午後1:30～4:00

夜クラス 午後6:00～8:30

(人数によって終了時間変更あり)

★最終月の9月は舞台稽古と発表会本番です  
募集定員 各クラス8名程度

会場 現代座会館の3階小ホールおよび2階

料金 受講料20,000円+教材費1,300円  
(全12回、発表会費用も含む)

◆近代から現代の文学作品などをテキストにした、初心者向けの講座です。聞く方を快くするために必要な発声の技法と口をきれいに動かすための基礎訓練を取り入れ、朗読に適した声作りをします。まずは、テキストを数ページずつ全員で読み分けして作品を読む楽しみを味わいましょう。基本的にひと月で一作品のペースで進めていきますので、飽きることなく楽しく朗読を学ぶことができます。また、8月には各自が発表作品(5分～10分ほどの作品)を練習し、9月にその成果を舞台上で発表しましょう。舞台朗読の実践までをじっくり丁寧にお教えします。

●お申し込み・お問い合わせはNPO現代座まで

## 現代座会館 11月～1月 活動日誌

11月10日 現代座創造グループ会議

現代座「バラエティ劇場」稽古開始

24日 「現代座レポート80号」発送作業

12月15日 緑町第2町会会議

毎月第3木曜日「緑町ふれあいサロン」

## 〔現代座ホール〕

11月5日 劇団希望舞台

「釈迦内板唄」稽古

11～17日 TEAMトライデント

「トライデント・ソニック」公演

28日～12月1日 劇団芝居屋樂屋

「明日葉の庭」公演

12月5日 劇団希望舞台 「釈迦内板唄」稽古

1月7～11日 劇団影法師

「風の夜に」稽古

2月4～7日 ふるきやら

「瓶ヶ森の河童」稽古

## 〔三階小ホール〕

11月4日 劇団希望舞台 「釈迦内板唄」稽古

12月15日 現代座「バラエティ劇場」稽古

1月10、19、25日 現代座

「バラエティ劇場」稽古

隔水曜日 朗読教室

毎火曜・木曜日 ヨガ教室

## 〔定期使用 二階サロン〕

毎金曜・日曜日 教育文化経営学院(学生支援)

毎水曜日 熟年パソコンサークル

隔木曜日 JPO 熟年講座

## NPO現代座の会員になってください

- 年間4回発行の活動レポートをお送りします。
- 会員による企画行事をお知らせします。
- お申し出があれば、上演舞台の録画DVDをお送りします。

## ★年会費 (現代座レポート購読料を含む)

一般会員 3,000円

協賛会員 10,000円 (1口以上)

郵便振替口座番号 00110-7-703151 NPO現代座